

デジタルが与える環境変化と当社におけるDXビジョン

近年、第四次産業革命と言われるように、IoT、ビッグデータ、AIやロボットなどの新技術が急速に発展し、社会全体に大きな変化を引き起こしつつあります。

構造的な問題である少子高齢化・人口減少が進行し、今後ますます人材の確保が困難になることが予想される中で、こうした技術革新に迅速かつ適切に対応し、人手不足を克服し、生産性を向上させ、企業の競争力を高める重要な要素であることは間違いありません。

社会課題を克服し、経済成長を続けていくひとつの答えが「デジタル活用」であり、「製造現場のデータ活用」や「ロボット活用」であると考えられます。

我々の目指す方向（ビジネスモデル）

協立電機グループは、創業以来60余年、計測・制御・情報・電機・機械・分析・検査分野を中心に、IoTとファクトリーオートメーション(FA)の融合領域であるインテリジェントFA技術を基盤として事業を推進してまいりました。

お客様にとって頼り甲斐のあるパートナーであることを目指して、国内はもとより北米や、中国、インド、タイ、ベトナムをはじめとする東南アジアなど、9カ国15拠点に生産工場とサポート拠点を設け、お客様の御役に立つことを念願としています。

当社のお客様はほぼ製造業であり、製造現場および研究開発部門を対象に、IoTとFAが融合した「インテリジェントFA」として工場における生産ラインの自動化をご提案しております。

生産ラインを自動化するためには、さまざまな計測データを瞬時に分析し、生産ラインを常に最適な状態に保つ必要があります。これを最新のIT技術と結合させて管理するシステムをインテリジェントFAとし、当社のコアビジネスとして注力しております。

また経済成長が続くインド等、当社の強みである技術力をもとにアジアにある現地拠点を通じて海外需要の掘り起こしも目指しております。

協立電機グループは、日々進化を遂げる技術と豊富な経験をもとに、FA技術とIT技術の融合分野であるインテリジェントFAシステム市場を対象に開発型ビジネスを通して豊かな未来社会に貢献してまいります。

当社の戦略

当社では、さらなる競争力確保のためのビジネスモデル実現に向け、以下について取り組んで参ります。

■顧客対応力強化に向けたDX

製造業のお客様にとって、命である製造ラインを安心してお任せいただくためにも、お客様から信頼頂くことが重要と考えております。当社の考える“高い営業力”とは「お客様さまのニーズを知り、根本的な原因に対して解決策を提示できること」です。

当社を含めた協立電機グループ24社の各現場でのお客様のニーズ等の蓄積を強化し、良質なナレッジデータとして共有化することで、グループ全体でお客様の根本的な課題解決を推進して参りたいと思います。

当社は国内はもとより海外を含め、世界のお客様の対応をさせて頂いております。

エリアごとに異なる多種多様な社会的課題を起点とする「新たな顧客ニーズ」を把握し、グループウェアやSFAによりグループに分散していた商談開始から受注までの一連の提案情報を共有し、ナレッジを集約することで、より先進性の高い提案活動を進めて参ります。

また、これら仕掛けから得たデジタル化されたお客様情報を組み合わせ、製品、エリア等様々な角度から分析可能な環境を整備することで、あらたなソリューションを創出して参ります。

また、FAは比較的、新規参入が少ない業界と言われますが、グループ全体でお客様情報、製造業向けデータベースサイト「イプロス」と呼ばれるWebサイトへのお問合せ情報も含め共有し、信頼性やネットワークを生かして、新しいお客さまとの接点を増やしていきたいと考えます。

■製造現場におけるDX

協立電機グループはモノの売り買いをする商社機能、モノを作る製造機能、現場の機器や作業をコントロールする機能の全てをグループ内で担っており、それが当グループの強みとなっております。

深刻な人手不足等の課題は例外なく訪れており、将来を見据えた中期的対策を行うことが急務となっております。

当社は深刻な人手不足を追い風に変え、デジタル技術を最大限発揮したインテリジェントFA領域においてロボットの活用により、徹底的な省力化を推進してまいります。

また、これら自社の取り組みで得た知見・ノウハウをお客様の課題解決にも活かして参ります。

■経営数字把握の高度化

当社のお客様はワールドワイドに広がっており、協立電機グループ24社全体で対応しております。また様々なIT、FA技術を組み合わせた製品群が多岐にわたっております。

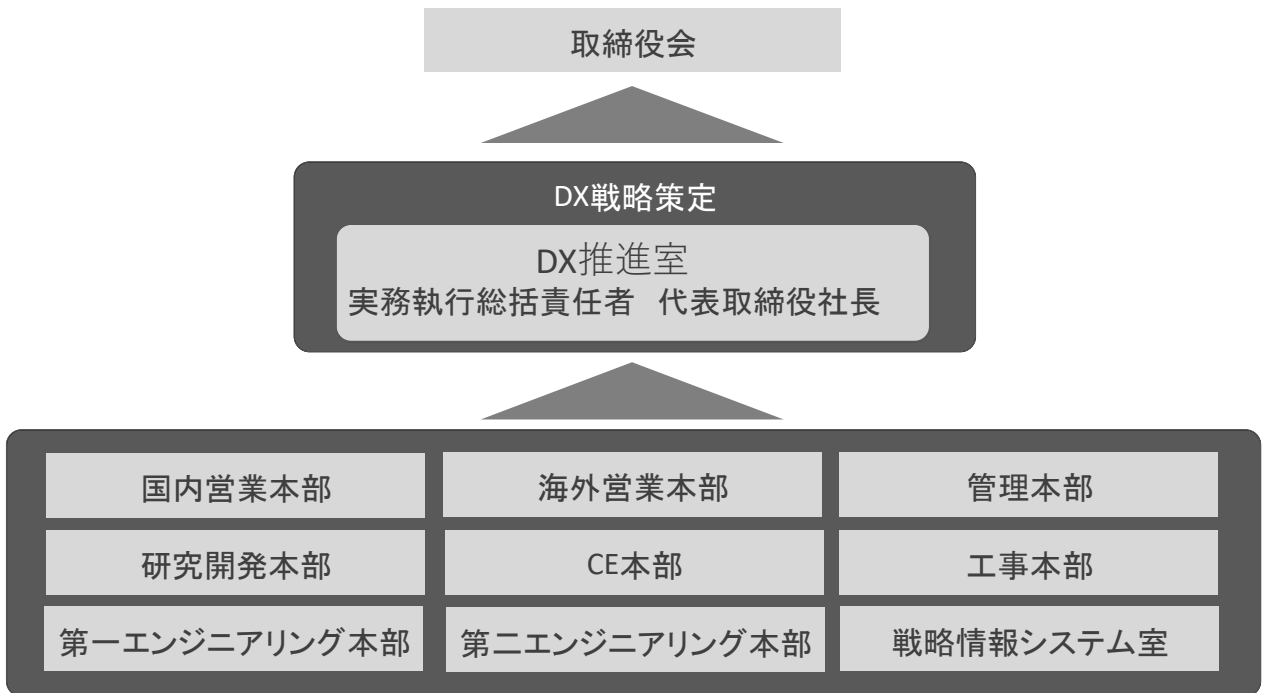
当社では既に経営数字のリアルタイムでの把握等は実現出来ておりますが、今後ますます複雑化する世界、そして地元静岡を含めた国内市場に対してどうアプローチを進めるかは経営数字そのものの分析も様々な切り口が必要であり高度化が望まれます。

当社は部門ごとに分散して導入していた個別最適なシステムを全体最適化すべく、段階的に基幹システムの刷新を図り、戦略的なシステム投資を推し進めて参ります。

当社は高い技術力を持つ研究開発型企業でありたいと考えます。数字を把握しPDCAサイクルを早める効率的な経営を目指し、さらに自己資本比率を高めながら研究開発に投資を進めて参ります。

DX推進体制

当社はDX戦略を実現するため、代表取締役社長を責任者とし、各部門から選出されたメンバー（兼任）で構成する「DX推進室」を設置し、推進して参ります。



人材育成・組織能力強化への取り組み

当社は顧客への提供価値・自社の存在価値を高めるため、DX 推進の担い手となる人材育成にも注力いたします。

当社では社員一人ひとりの強み弱みを把握し育成計画を立案しております。

＜育成目標＞

- ・当社管理職以上に対してスキルアセスメントを実施
そのアセスメント結果データに基づいた個人別eラーニング受講を促進
- ・スキル全体像を把握し、DX検定資格取得を推進する

また、「経営数字把握の高度化」等戦略システムの強化に際してはあらたにタスクフォースを組成し、社外協力会社も活用しながら人的リソースの強化を図りつつ、戦略的に進めております。

戦略推進のためのITシステム・デジタル技術活用環境の整備

当社が中期計画・長期ビジョンで目指す“あるべき姿”を実現するために、基盤強化に向けた開発投資を既存の自社システム維持運用費とは別に戦略的に投資して参ります。

特に、当社の掲げる戦略「顧客対応力強化に向けたDX」、「経営数字把握の高度化」については、以下ITシステムの整備が前提となることから当社リソースを集中させ、計画的に推進しております。

■ SFA導入・活用スケジュール

- 2021年 SFA導入・一部部門で検証利用を開始
- 2022年 全部門に範囲を広げてSFA利用を開始
※現在は顧客情報の登録を推進中

■ 新基幹システム導入スケジュール

- プロトタイプ 検証中
- 2024年1月 試験稼働（既存システムと平行稼働）
- 2024年7月 本稼働

戦略達成状況に係る指標

当社は DX 推進によって目指す姿を実現するため以下目標設定をしております。

- ①お客様情報の整備と共有・活用 全ユーザの100%作成
- ②DX関連売上比率 2026年までに5%達成
- ③自社DXにおける基盤としての「新基幹システム」を2025年に完成

当社におけるDXの進捗

協立電機株式会社
代表取締役社長 西 信之

私たちが掲げるDX戦略の進捗状況について以下の通り、お知らせいたします。

①顧客対応力強化に向けたDX

当社は顧客対応力を強化すべく、お客様情報の整備と共有・活用するために既に導入済のSFAに全ユーザ情報を登録（登録率100%）を目指しております。

現在、登録率は80%であり、100%を目指すように登録を進めています。

②DX関連売上比率の向上

当社は製造現場におけるDXを自ら推進し、そのノウハウをお客様に提案することでDX関連売上比率の向上を目指しております。

お客様への提案の場として、当社主催の展示会である「協立グループ展 in 静岡」を11/18開催し、ロボット・FAソリューション、分析ソリューション、IoT・DXソリューション等、当社のノウハウを含め、様々なDXソリューションの紹介を行います。

「協立グループ展 in 静岡」

URL : <http://engsol.kdwan.co.jp/2023/index.html>

③DX基盤「新基幹システム」の開発状況

当社では経営数字把握の高度化を図るべく、現在新しいシステム基盤(新基幹システム)を構築しており、現在、プロトタイプが完成し、検証を開始しました。

なお、今後の開発スケジュールは以下の通りとなっております。

2024年1月 試験稼働（既存システムと平行稼働）

2024年7月 本稼働